

完了後の評価個表

整理番号	14
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	鳥取県
地域（地区）名	せんだいがわ 千代川	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等
関係市町村	鳥取市ほか4町	管理主体	県、市町、森林組合、森林所有者等
事業実施期間	H23年度～H28年度（6年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、民有林野面積は104,840ヘクタールで林野率は69パーセントと県内で最も林野率が高い地域である。千代川上流部には、智頭町・若桜町といった古くからの林業地があり、林齢の高い森林が多い。また、本地区では、素材生産から加工・流通に係るまでの拠点施設の整備が進んでおり、県産材の産地化が期待されている。なお、本地区の森林は鳥取市等下流域の重要な水源林となっている。</p> <p>本地区においては、長期にわたる人工林の造成により森林資源は着実に増加してきている一方で、木材価格の低迷や森林所有者の高齢化等に伴い手入れが行き届かない人工林が増えているため、木材生産に加え、水源の保全や土砂崩壊の防止など森林の持つ公益的機能の発揮に向けた継続的な保全が必要である。</p> <p>本事業では、良質な木材生産と同時に、森林の有する公益的機能の持続的な発揮を目指すとともに、他事業と連携した間伐材の利用を推進し、地域資源の有効活用と地域の振興を図るために必要な造林や間伐などの森林整備及びこれらを効率的に推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="margin-left: 40px;">森林整備 5,275ha</p> <p style="margin-left: 80px;">人工造林、下刈り、雪起こし、除伐、枝打ち、 保育間伐、間伐等</p> <p style="margin-left: 40px;">路網整備 748m</p> <p style="margin-left: 80px;">林道開設</p> <p>・総事業費 9,684,635千円（税抜き 8,967,255千円）</p>
-----------------	---

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和4年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>事業着手以降、当初の予定よりも施業の集約化が進んだことにより、保育間伐及び間伐の施業量が増加したことを踏まえ費用便益分析を実施した。</p> <p>総便益（B）55,551,193千円 総費用（C）9,613,026千円 分析結果（B/C）5.78</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐、保育などで5,275haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・林業専用道の開設により748mの路網が整備され、車両が通行可能となったことにより、森林整備事業地までの通勤時間の短縮や資材運搬等が容易になった。また、大型車両による木材運搬が可能になり、事業地から林業専用道までの搬出距離が短縮され、木材生産の経費の縮減が図られた。 ・森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理されている。また、新たな森林管理システム制度が始まり、千代川地区では「森林づくり協議会」により森林施策が総合的に検討されつつあり、良好な森林資源の管理がなされている。 ・整備された路網は、草刈りや路面の整備等が行われており、適切に維持・管理されている。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・路網整備が進み、多くの箇所森林整備が実施され、良好な森林が形成されたことで、水源涵養や山地保全、林産物の安定供給等といった多面的機能が発揮されている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>森林施業に資する路網の整備・連結によって、高性能林業機械を含む機械作業システムが浸透してきており、効率的・効果的な森林施業が実施可能となっている。</p> <p>千代川地区では、川下に木質バイオマス施設が設立されたことで、C材、D材の利用が進み、より一層木材利用の推進が期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、木材を安定的に供給するため、森林経営計画等に基づく適切な森林管理及びその実施に必要な路網を着実に整備していく必要がある。 ・11 齢級以上の人工林が主伐可能な時期を迎えており、従来の延長線上にある保育主体の施業からの転換期を迎えつつあることから、今後は間伐等の森林整備と併せて、皆伐再造林を推進することで森林資源の循環的利用を進めながら、適切な森林管理による持続可能な林業の実現により、森林の持つ多様な機能を継続して発揮していくことが必要である。

	<p>・地元の意見：</p> <p>（鳥取県） 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源かん養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。</p> <p>（智頭町） 林道の開設後は森林へのアクセスが容易になり、森林整備に寄与している。</p>
<p>評価結果</p>	<p>必要性： 間伐等の森林整備を通じて、森林の有する公益的機能の発揮が図られ、地域における水源林や、防災減災に重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では、高性能林業機械や架線集材を活用し、低コストで効果的な作業システムの定着を図ってきている。</p> <p>また、路網整備では丈夫で簡易な構造の林業専用道を採用すること等により、森林整備事業箇所へのアクセス向上が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能が発揮されており、引き続き、その効果が継続されていることから、事業の有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

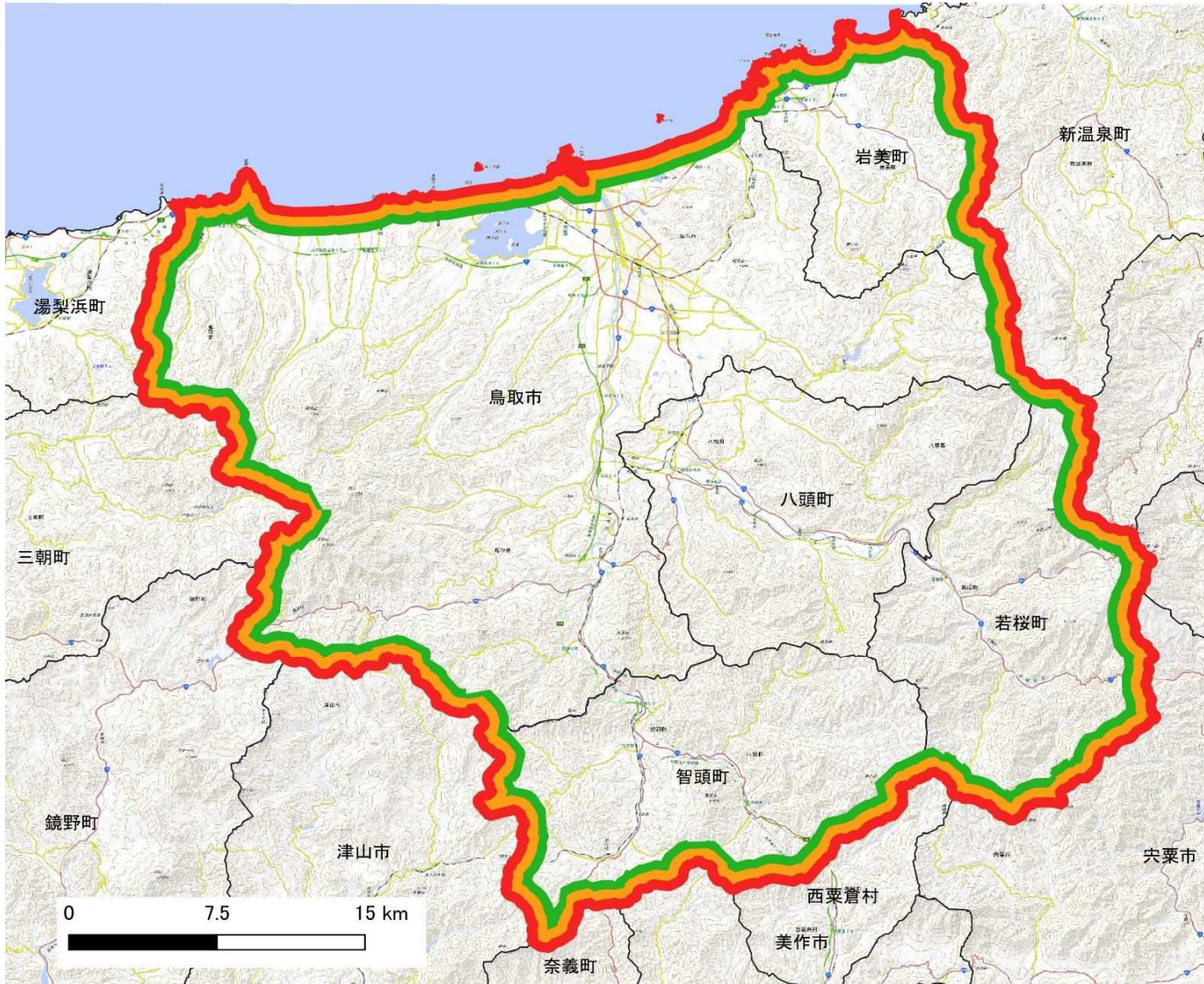
都道府県名：鳥取県

地域(地区)名：せんたいがわ
千代川

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	16,096,535	
	流域貯水便益	4,345,258	
	水質浄化便益	15,982,889	
山地保全便益	土砂流出防止便益	9,265,367	
環境保全便益	炭素固定便益	6,647,833	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	3,268	
	木材利用増進便益	5,521	
	木材生産確保・増進便益	2,418,833	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	515	
	森林整備促進便益	785,174	
総 便 益 (B)		55,551,193	
総 費 用 (C)		9,613,026	
費用便益比	$B \div C = \frac{55,551,193}{9,613,026} = 5.78$		

森林環境保全整備事業 千代川地域 (鳥取県)



凡 例	
計画区界	
事業区域	
整備箇所	